



地域貢献に繋がる産学官連携 に向け大学がすべきこと ～北見工業大学を例に～

北見工業大学

マネジメント工学コース 産学官連携価値創造研究室

水野朋恵 佐久間浩平 津川渚奈 於

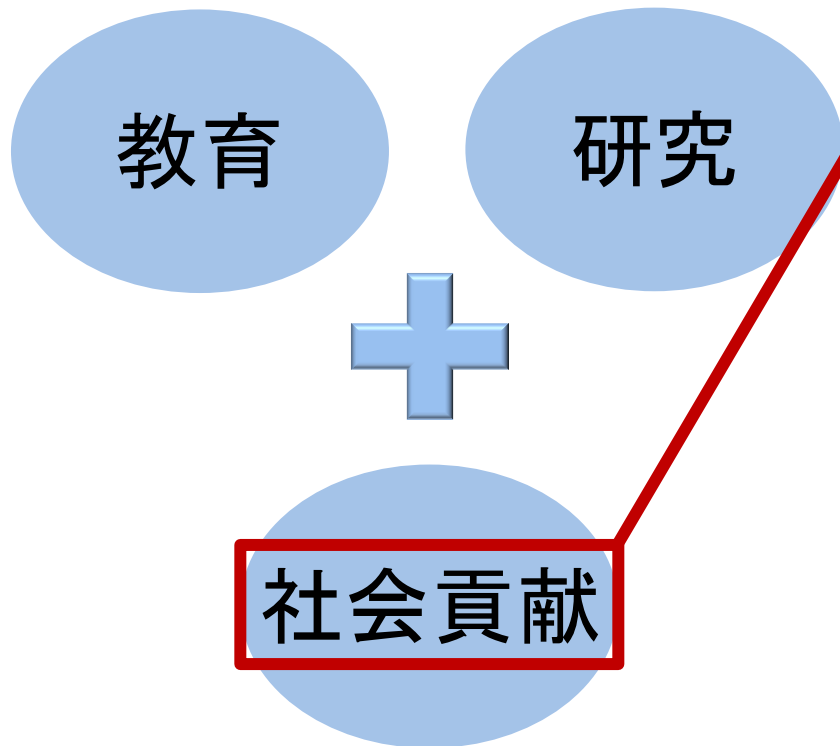
2016.12.10.

本日の報告

1. 背景
2. 目的・目標
3. 研究内容
 - 1) 学官連携の実態調査
 - 2) 広報活動の実態調査
 - 3) CI確立に向けたアイデンティティ抽出
4. まとめ

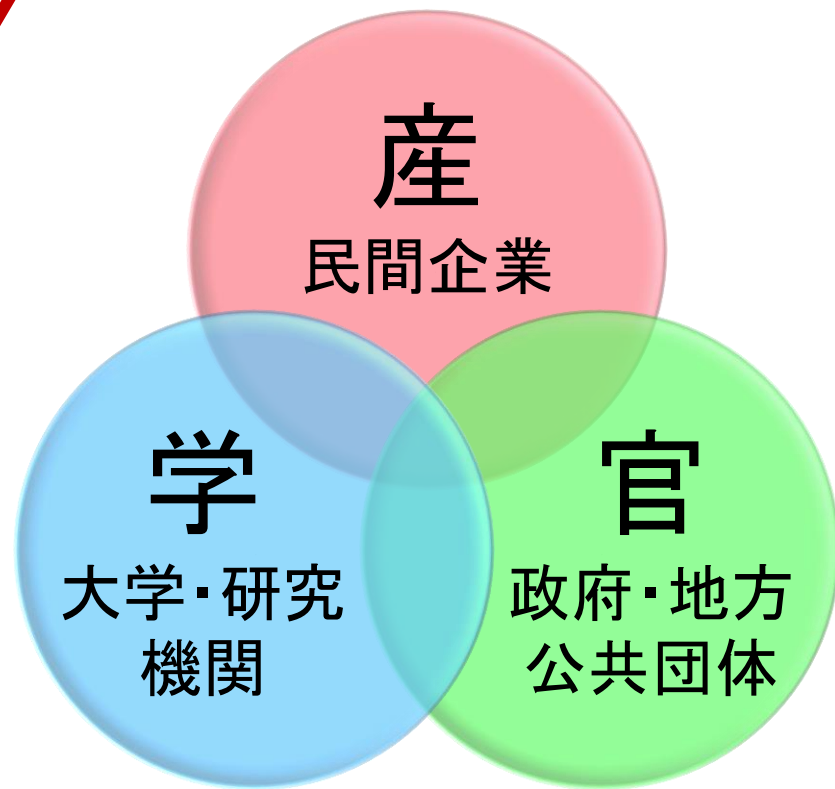
1. 背景

大学の使命



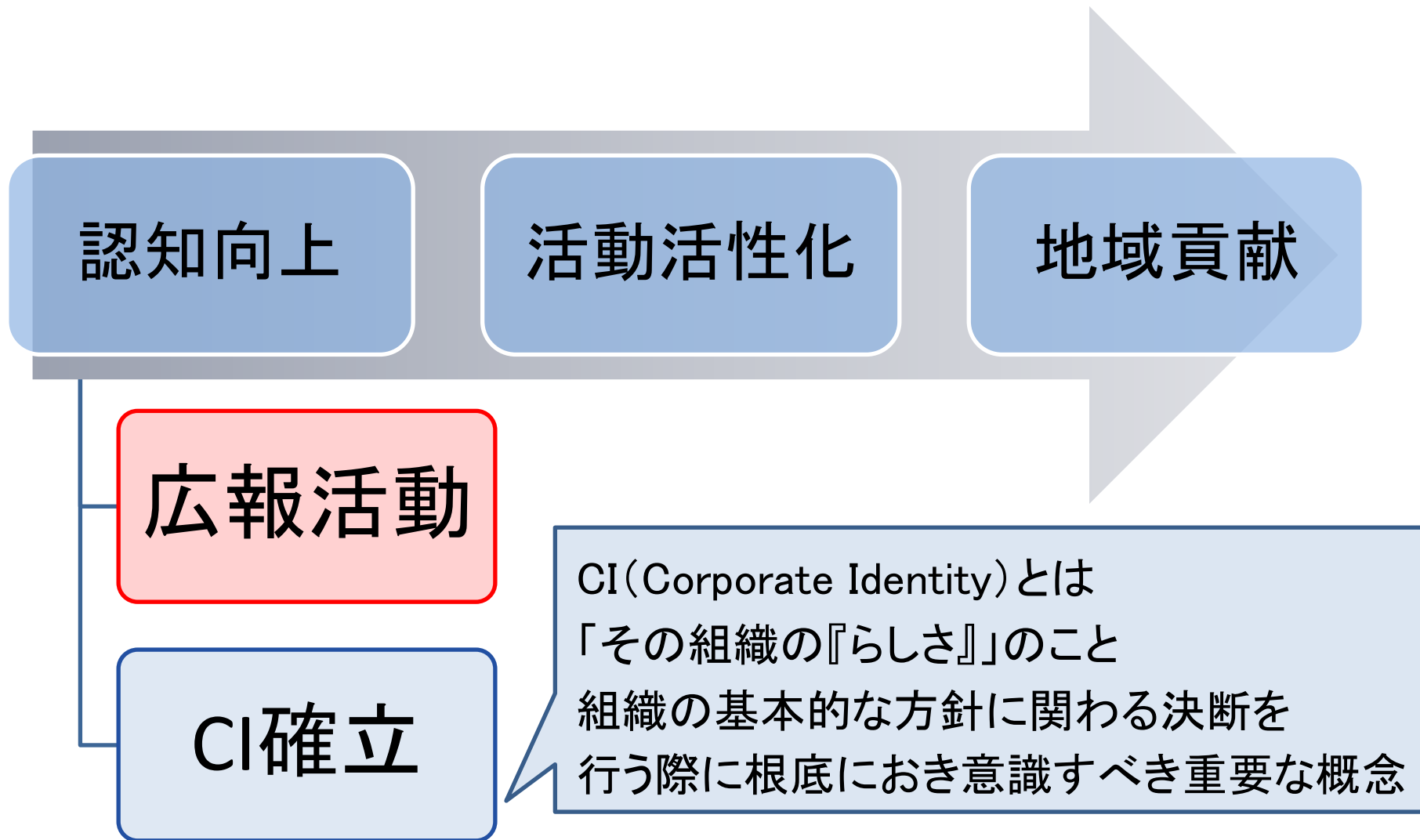
地域社会、経済社会、
国際社会等、広い意味での
社会全体の発展への寄与

産学官連携



産学官連携は
より良い社会の構築につながる

1. 背景



2. 目的・目標

目的

地域貢献に繋がる産学官連携活動を推進すること

目標

- ・北見工業大学と北見市による
学官連携の実態調査
- ・北見工業大学の産学官連携広報の実態調査
- ・北見工業大学のCI確立に向けた
アイデンティティ抽出

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

① 研究方法

共同研究*

- 対象
平成13年度から
27年度までの15年間
- 解析
共同研究全体に占める
北見市との共同研究数、
割合、研究分野

*北見工業大学社会連携推進センター年報

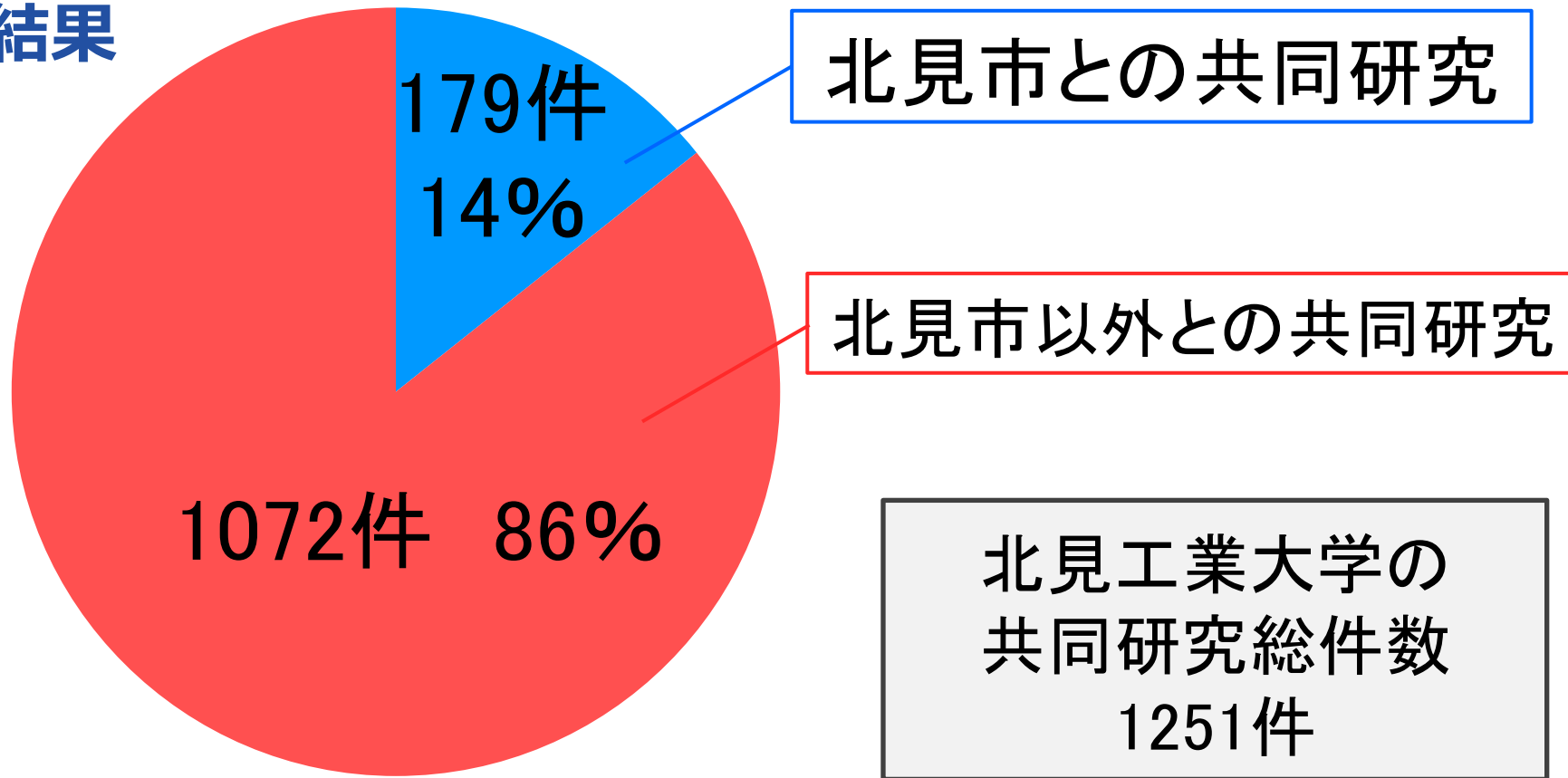
各種委員会活動**

- 対象
平成25年度から
27年度までの3年間
- 解析
参画委員会数、
参画委員の割合、
委員会に参画している教
員の所属する学科分布

**北見工業大学総務課

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

②結果

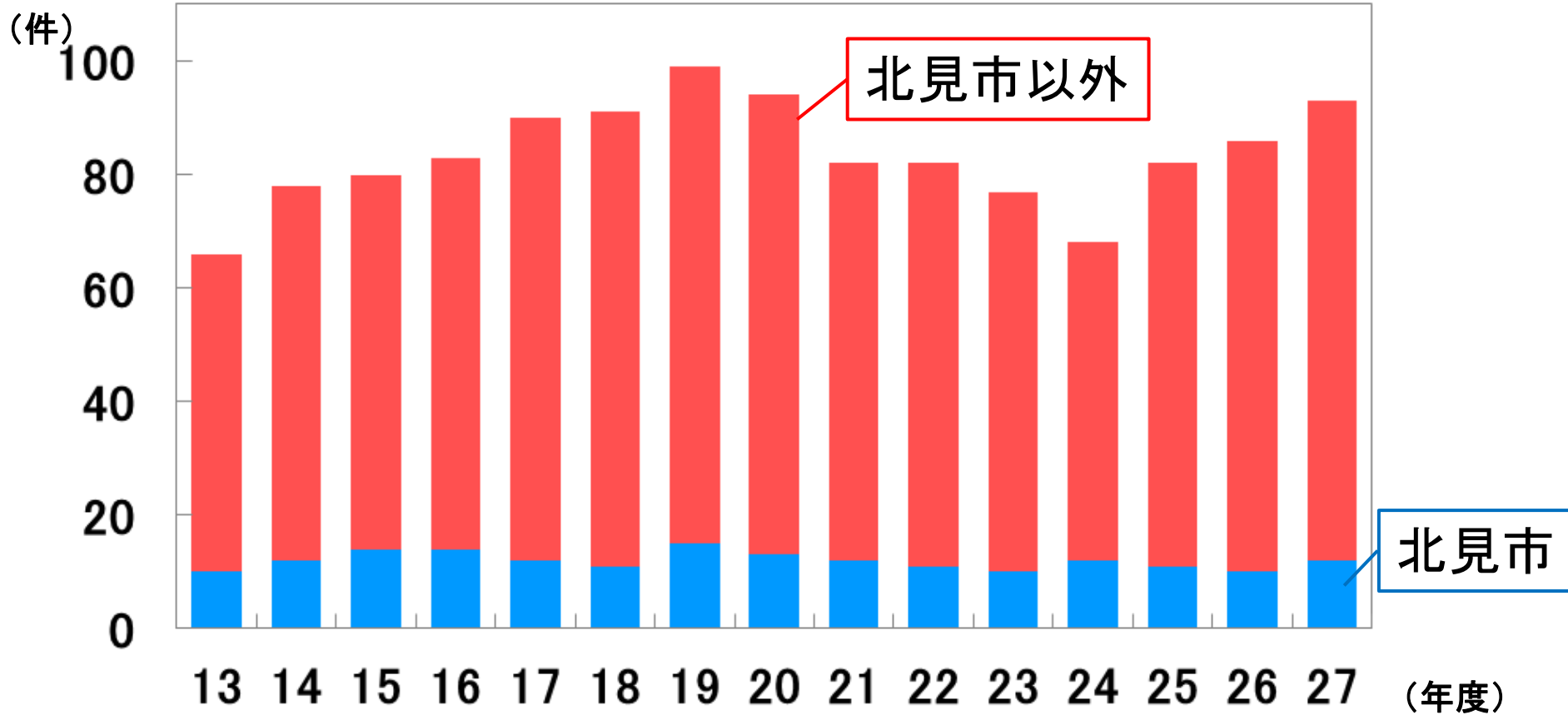


平成13年度から27年度における
北見工業大学の共同研究総件数に対する北見市との共同研究数

15年間で179件の共同研究を実施

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

②結果

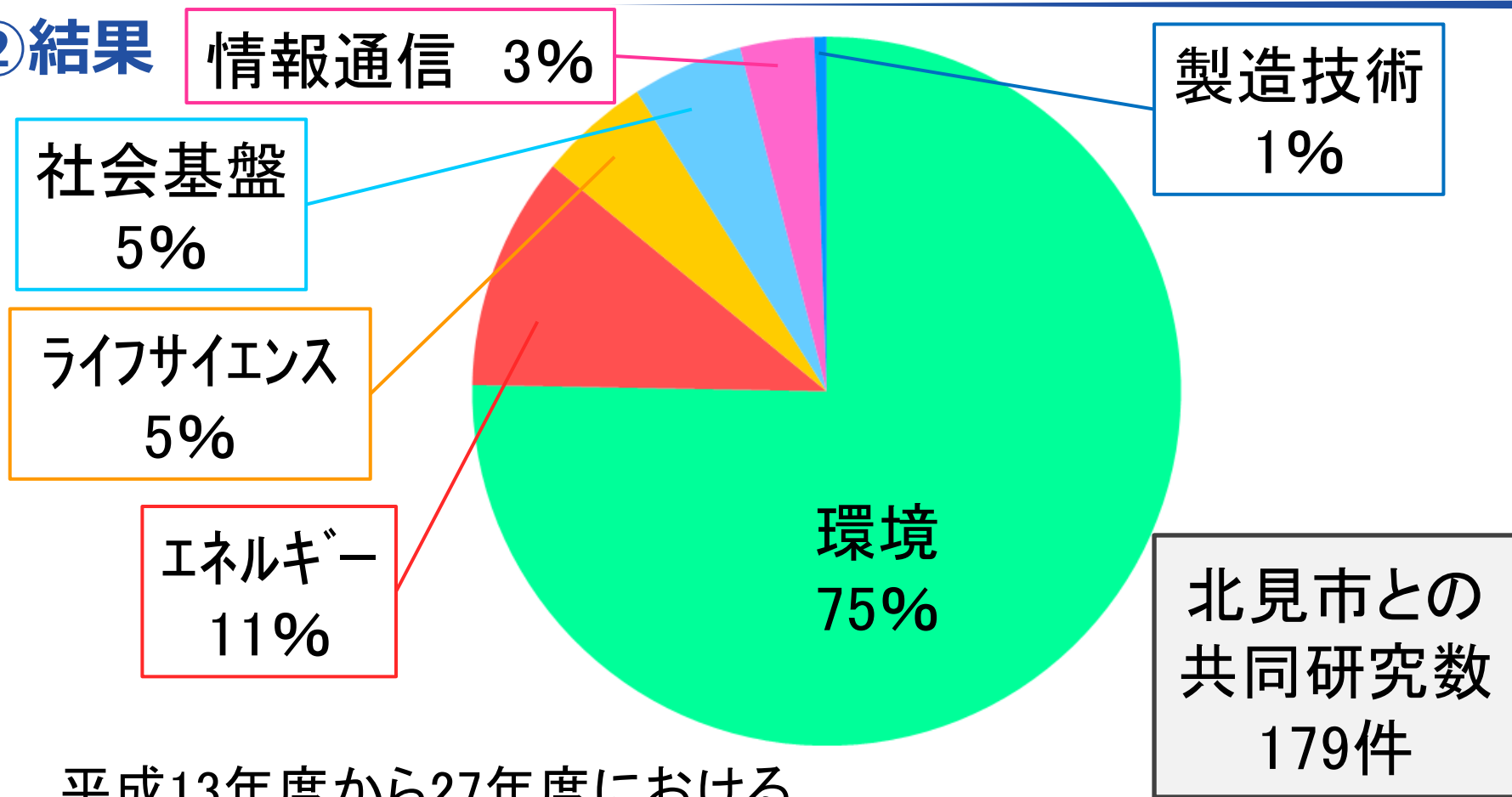


北見工業大学の共同研究総件数に対する北見市との共同研究件数の経年変化

毎年10件以上北見市と共同研究を実施

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

②結果



平成13年度から27年度における
北見工業大学と北見市との共同研究の分野別割合

環境分野の共同研究が75%を占める

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

②結果

平成25年度から27年度における参画委員会の数

年度	北見市	近隣市町村*	北海道	その他**	合計
H25	27	5	5	1	38
H26	27	6	5	2	40
H27	23	6	4	3	36
合計	77	17	14	6	114
平均	25.7	5.7	4.7	2	38



* 美幌町、遠軽町、紋別市等 ** 文部科学省、国土交通省

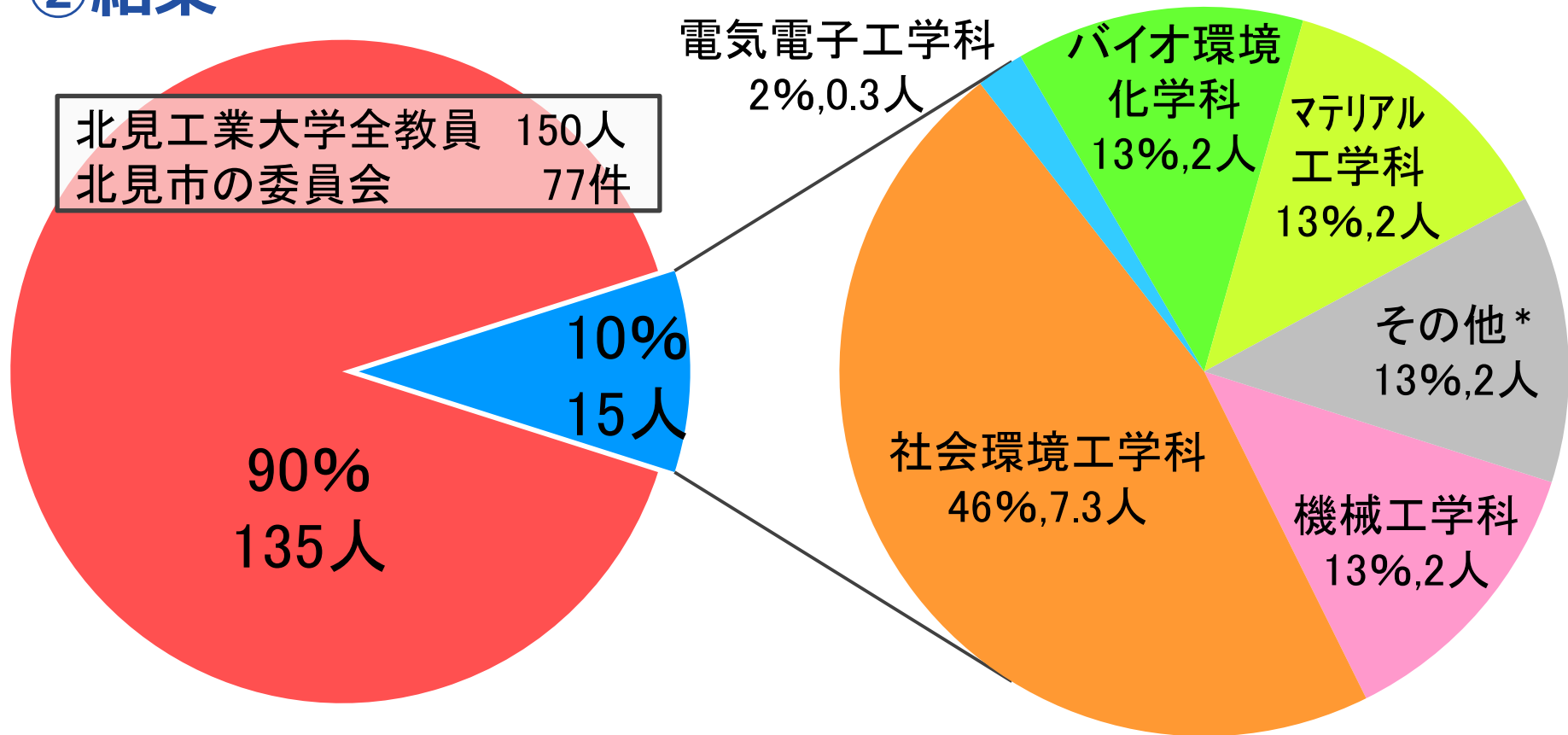
オホーツク総合振興局

<http://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/>

北見市の委員会に多く参加している

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

②結果



平成25年度から27年度における
全教員に対する北見市の委員会に参画している教員と
その教員の所属する学科の割合

* 共通講座、社会連携推進センター、国際交流センター等

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

③まとめ

- ・北見市との共同研究が毎年安定的に行われている
- ・環境分野の共同研究が約75%を占めている
- ・委員会には全教員の約10%が参画している

北見工業大学は産学官連携により地域に貢献

広報活動

2) 広報活動の
実態調査

CI確立

3) CI確立に向けた
アイデンティティ抽出

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

③まとめ

- ・北見市との共同研究が毎年安定的に行われている
- ・環境分野の共同研究が約75%を占めている
- ・委員会には全教員の約10%が参画している

北見工業大学は産学官連携により地域に貢献

広報活動

2) 広報活動の
実態調査

CI確立

3) CI確立に向けた
アイデンティティ抽出

3. 研究内容 2) 広報活動の実態調査

① 研究方法

見やすさ

→ 大学トップページから**特定のページ**までに
要するクリック数の「**最小値**」

(i) 「**産学官連携**」を
含むページ

(ii) 「**産学官連携機能**
を持つ施設」のサイト

産学官連携情報発信量

→ 大学の**サイト内検索**で
「**産学官連携**」と
検索した時の
「**検索ヒット件数**」

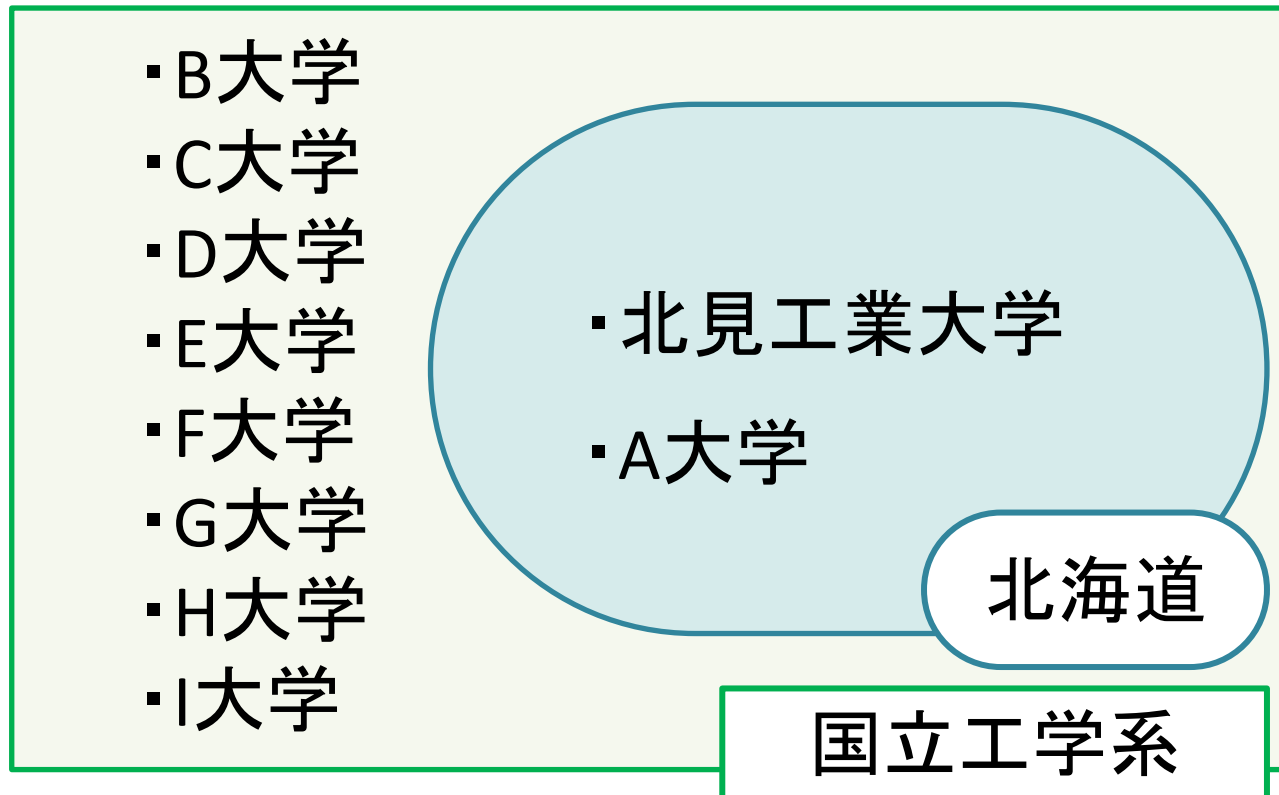
広報率

→ 産学官連携活動[※]
1件あたりの情報発信量
※産学官連携活動数
=**共同研究数**

3. 研究内容 2) 広報活動の実態調査

① 研究方法

「国立」「工学系」2つの条件を含む全国10大学での比較



「文部科学省 大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績（機関別）」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/sangakub.htm

3. 研究内容 2) 広報活動の実態調査

②結果

	クリック数(見やすさ)	
	「産学官連携」を含むページ	産学官連携機能を持つ施設
北見工業大学	1	2
A大学	1	2
B大学	1	3
C大学	2	3
D大学	1	2
E大学	1	1
F大学	1	3
G大学	1	2
H大学	1	2
I大学	1	3
平均	1.1	2.3

3. 研究内容 2) 広報活動の実態調査

②結果

	検索ヒット件数 (産学官連携情報発信量)	共同研究件数 (3年平均)	広報率
北見工業大学	18	67.3	0.27
A大学	347	66.0	5.26
B大学	3160	238.3	13.26
C大学	881	528.0	1.67
D大学	2670	184.0	14.51
E大学	1260	145.3	8.67
F大学	1550	241.7	6.41
G大学	1560	132.3	11.79
H大学	2570	146.3	17.56
I大学	56	189.7	0.30
平均	1407.2	193.9	7.97

「文部科学省 大学等における産学連携等実施状況 共同研究実績（機関別）」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/sangakub.htm

3. 研究内容 2) 広報活動の実態調査

③まとめ

見やすさ

- どの大学も同じクリック数で該当のページへたどり着ける。 → 見やすさに関しては、相違なし

産学官連携情報発信量

- 各大学の活動規模は異なっているが、北見工業大学の情報発信量が少ない。

広報率

- 共同研究1件当たりの検索ヒット件数が少ない。
→ 公開している情報量が少ない。

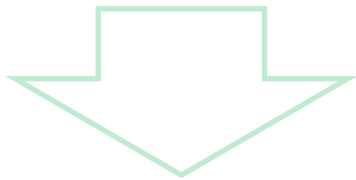
大学ホームページ上では、
産学官連携活動に対応する
充実した広報活動ができていない

3. 研究内容 1) 学官連携の実態調査

③まとめ

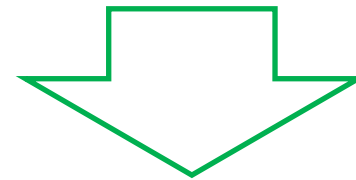
- ・北見市との共同研究が毎年安定的に行われている
- ・環境分野の共同研究が約75%を占めている
- ・委員会には全教員の約10%が参画している

北見工業大学は産学官連携により地域に貢献



広報活動

2) 広報活動の
実態調査

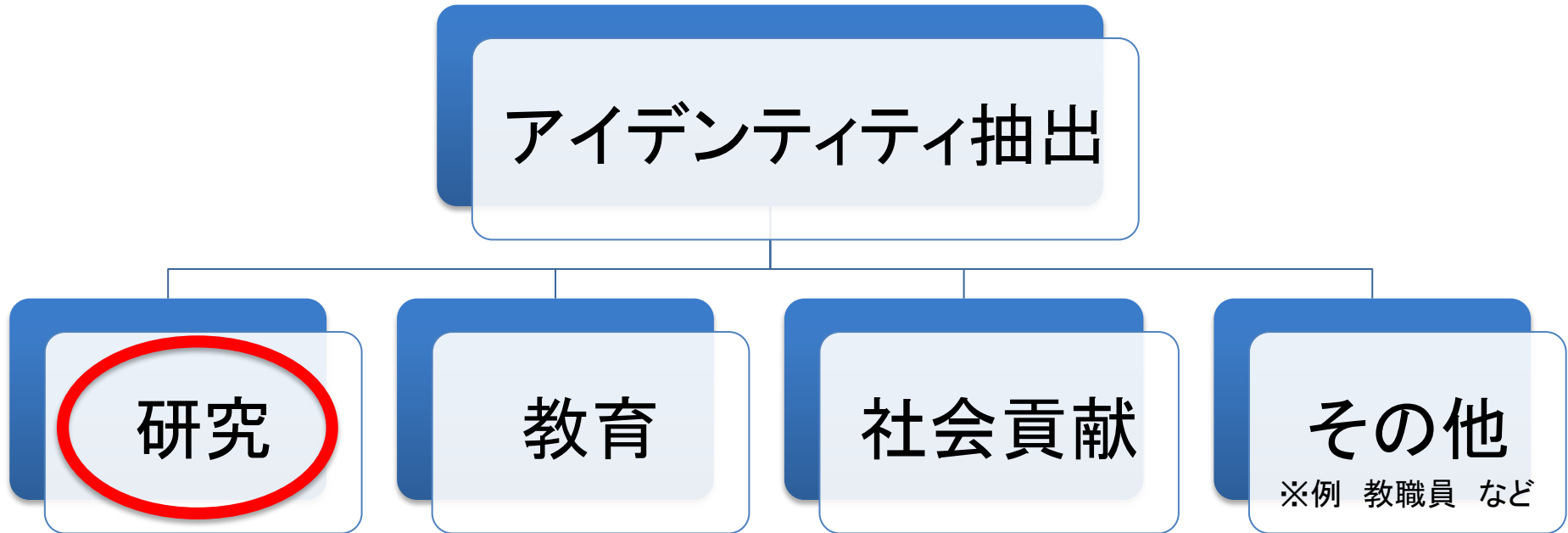


CI確立

3) CI確立に向けた
アイデンティティ抽出

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアイデンティティ抽出

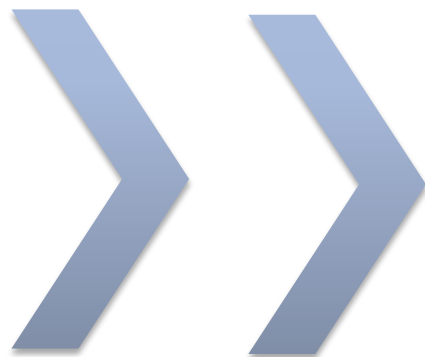
①研究方法



3. 研究内容

3) CI確立に向けたアジェンダ行い抽出

①研究方法



- 北見工業大学
ホームページ¹⁾
- 国立情報学研究所
情報ナビゲータ(CiNii)²⁾

- 「『オホーツク地域』らしさ」
- 亜寒帯気候
 - 広大さ
 - 豊かな自然
 - 第一次産業

1) 北見工業大学ホームページ <http://www.kitami-it.ac.jp/>

2) CiNii <http://ci.nii.ac.jp>

など

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアジェンダ行抽出

① 研究方法

学科	人数(人)
機械工学科	20
社会環境工学科	26
電気電子工学科	20
情報システム工学科	23
バイオ環境化学科	15
マテリアル工学科	15
その他	22
合計	141

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアジェンダ抽出

②結果

研究テーマ・研究論文の総研究件数:

526件 (平成28年8月24日時点)

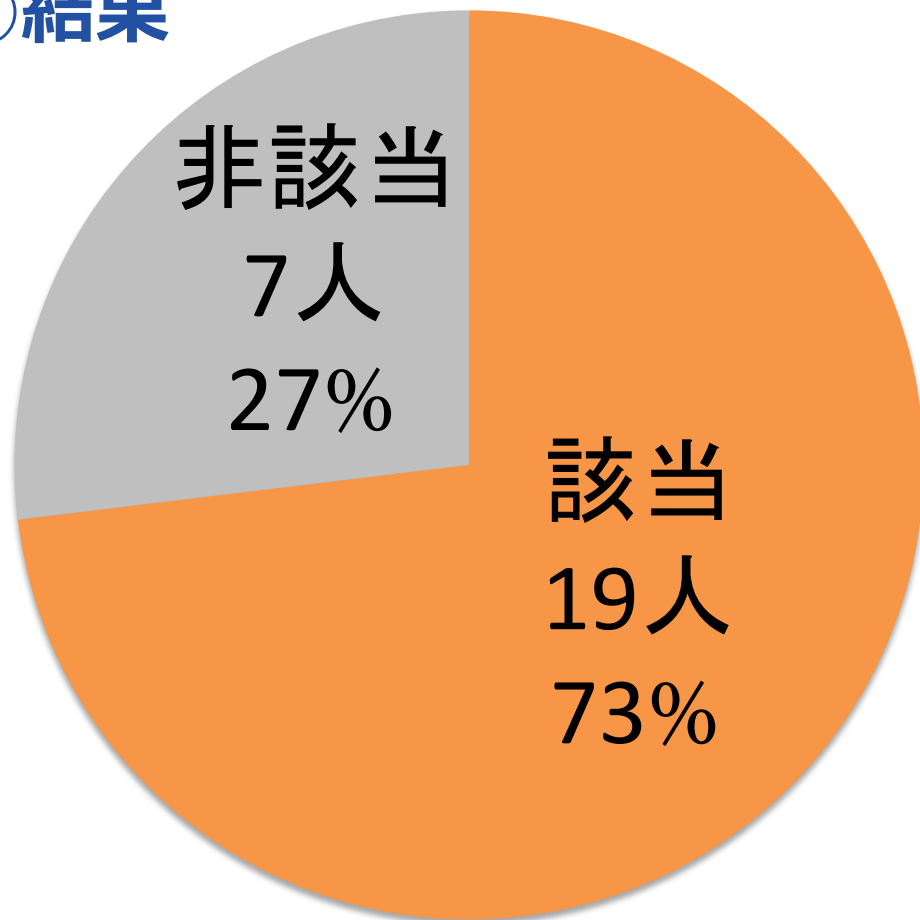
研究実績から「『オホーツク地域』らしさ」を感じ取れるキーワード一覧

大分類	キーワード
寒冷地	凍上、寒冷地、雪氷・雪、雪氷学、雪結晶、南極、冬季、極域、シベリア、積雪、氷床、低温、氷、凍害、凍結、氷河、融雪、流水 18語
自然環境	ハイドレート、観光、海跡湖、僻地 4語

3. 研究内容

3) CI確立に向けたアジェンダ抽出

②結果



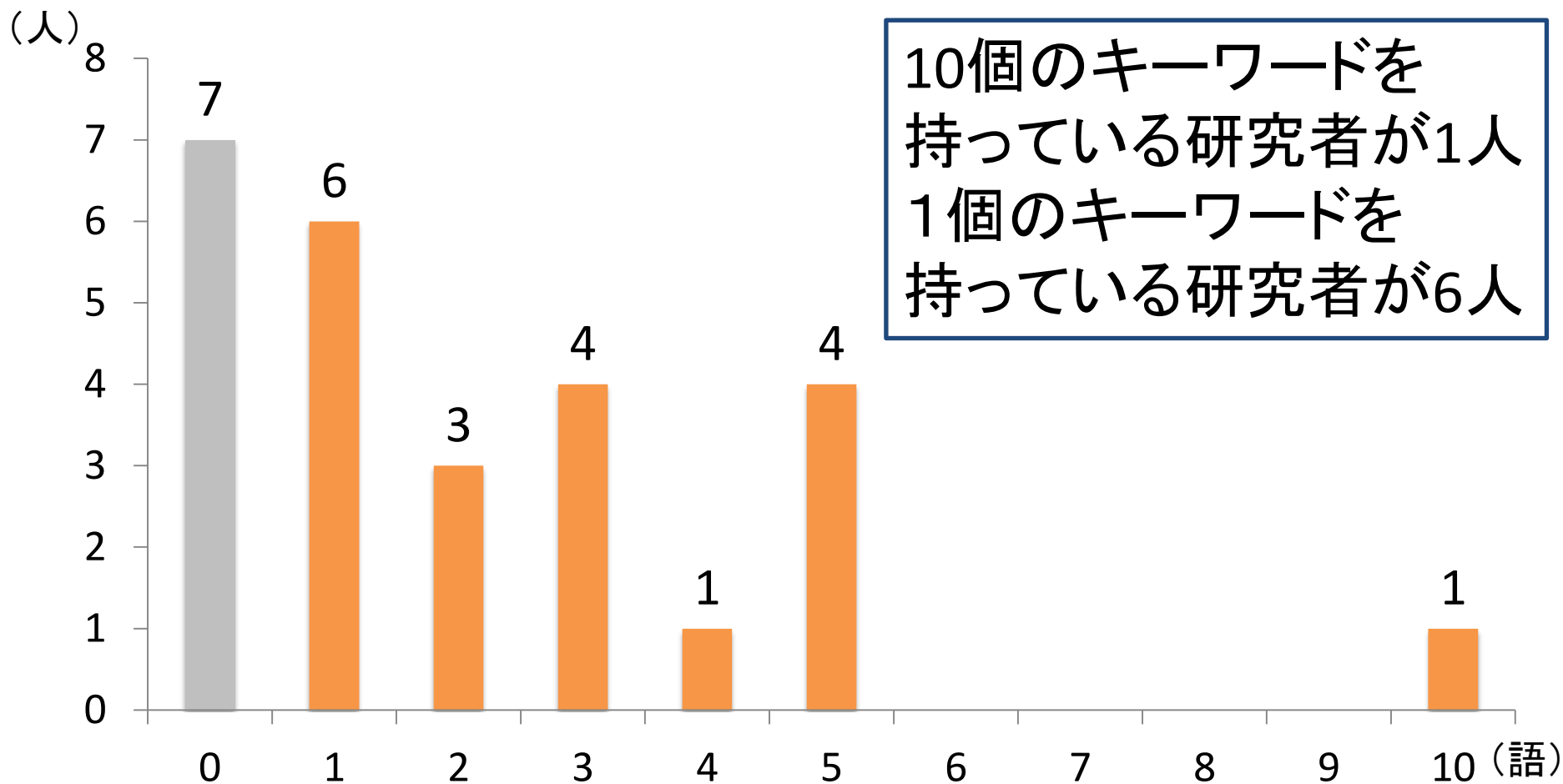
研究テーマ・研究論文が「オホーツク地域」らしいテーマ・論文を持つ研究者：該当19人

「『オホーツク地域』らしさ」を持つ研究の研究者割合

3. 研究内容

3) CI確立に向けたアジェンダ抽出

②結果

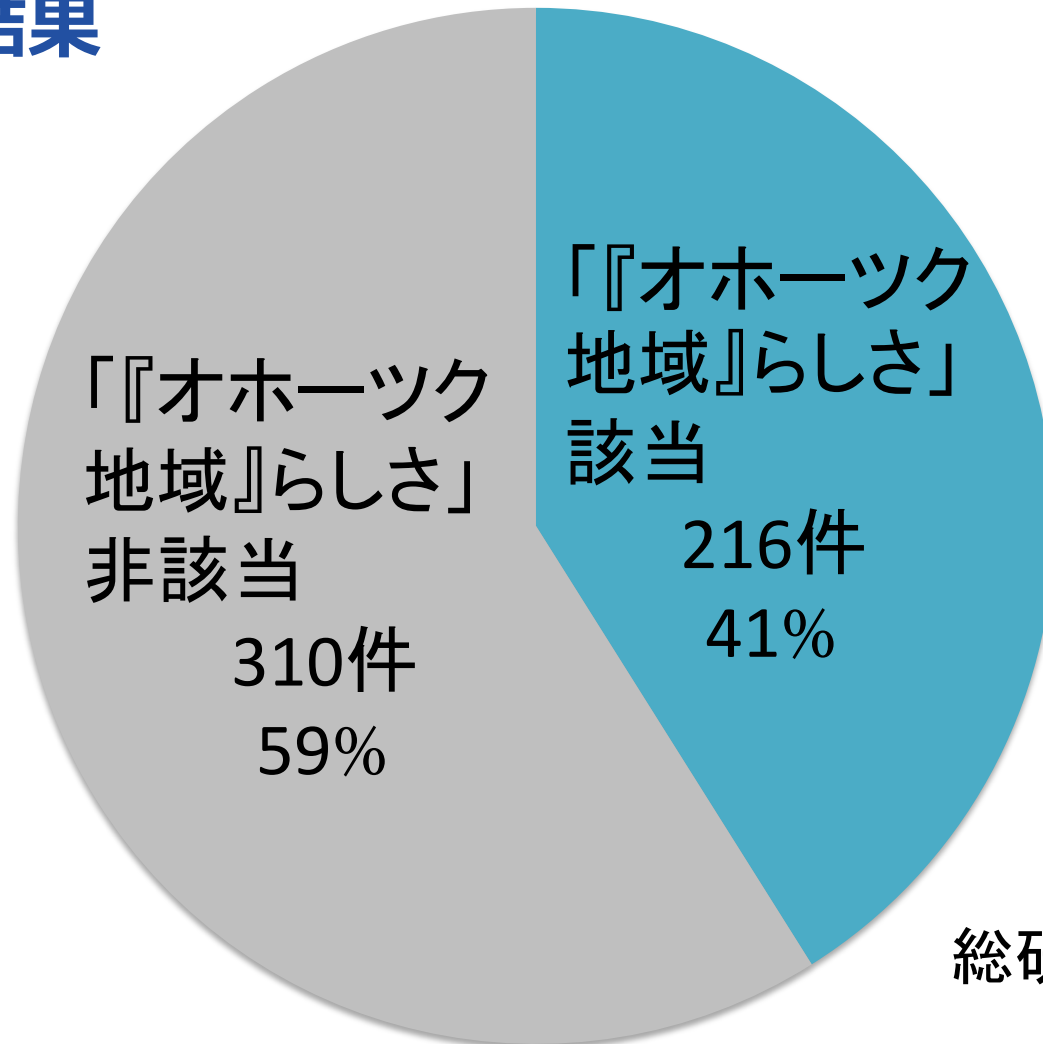


10個のキーワードを持っている研究者が1人
1個のキーワードを持っている研究者が6人

22キーワード中、各研究者が関連するキーワードの語数

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアジェンダ行抽出

②結果



全体の約4割が「『オホーツク地域』らしさ」を有している

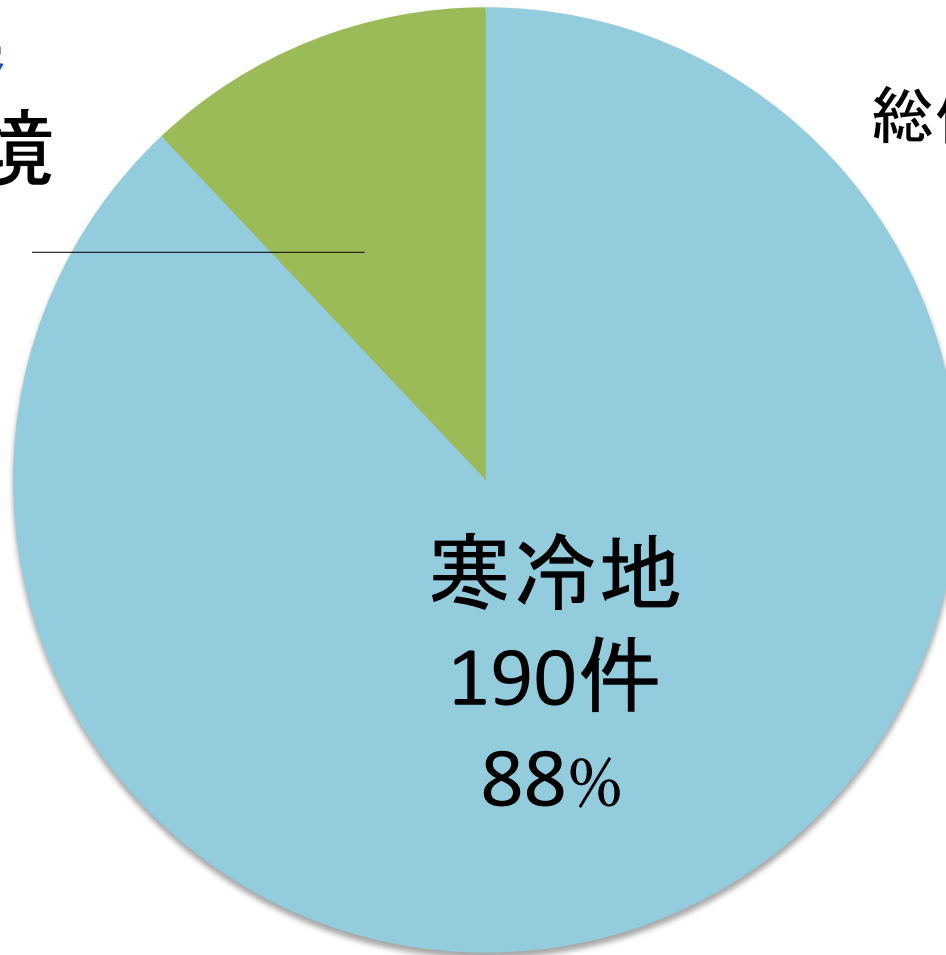
総研究件数526件

総研究件数に占める「『オホーツク地域』らしさ」に該当する研究の割合

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアジェンダ行抽出

②結果

自然環境
26件
12%



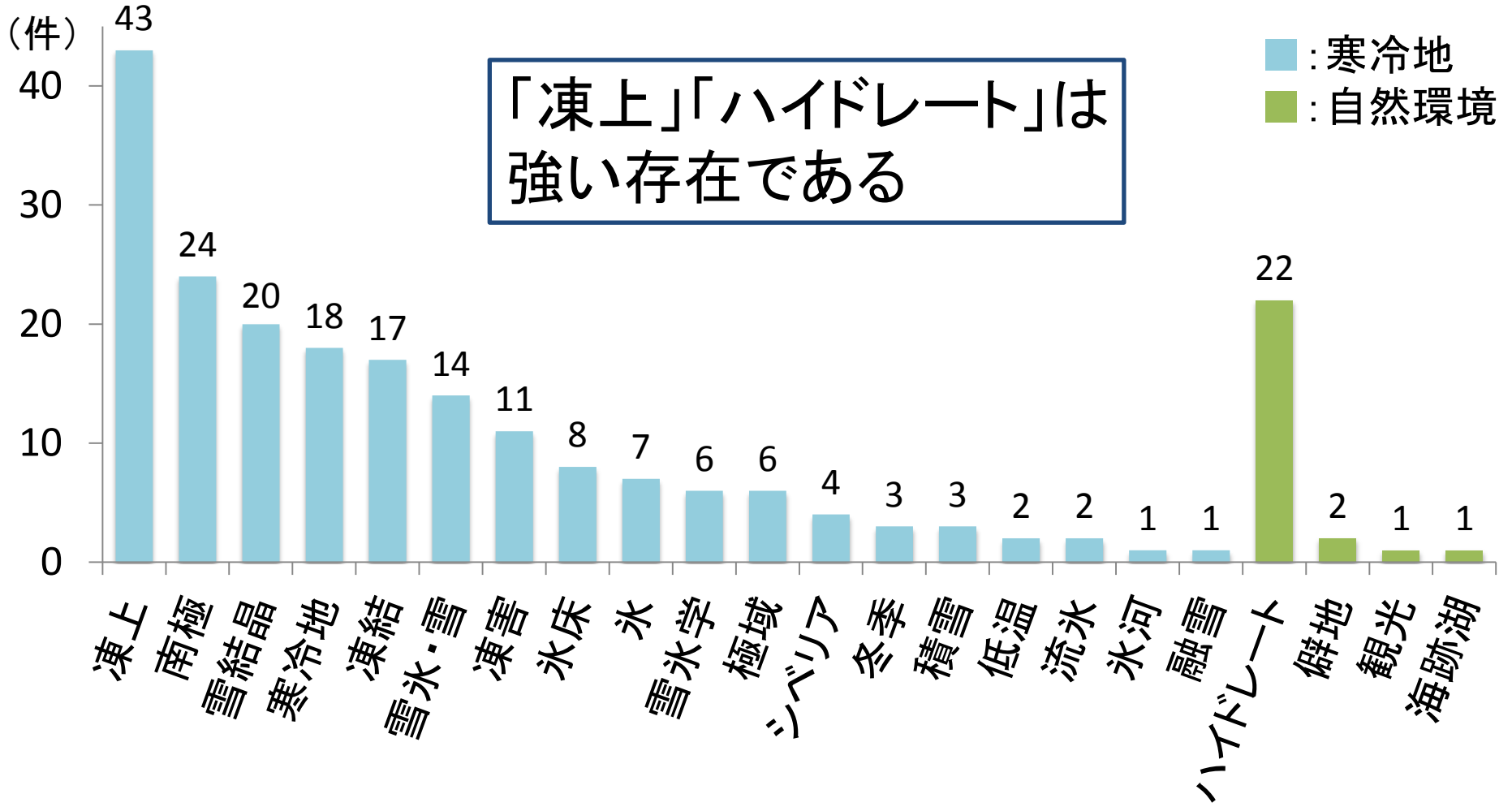
総件数216件

約9割が寒冷地に関する研究

「『オホーツク地域』らしさ」を有する研究の
キーワード大分類比

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアジェンダ抽出

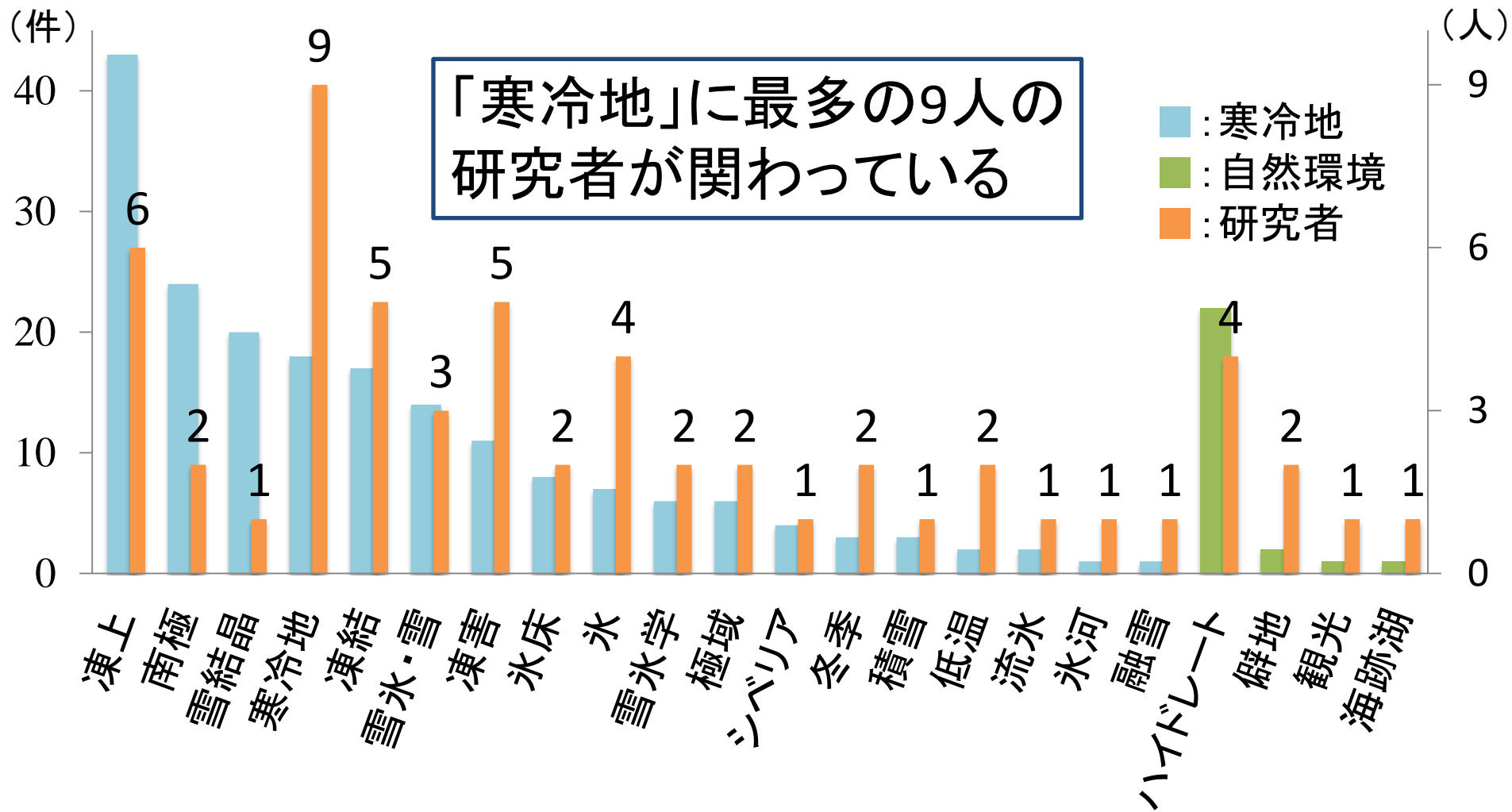
②結果



「『オホーツク地域』らしさ」の各キーワードに関連する研究の件数

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアジェンダ抽出

②結果



各キーワードに関連する研究実績数と研究者数

3. 研究内容 3) CI確立に向けたアイデンティティ抽出

②結果

□ 北見工業大学の研究者が行っている研究の実績を解析することにより、本学のアイデンティティの一つとして「寒冷地」を挙げることができた。

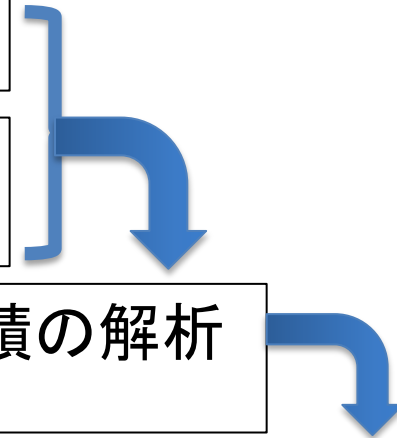
□ 以下の方法により、研究面からの大学のアイデンティティ抽出が可能であると考えた。

大学の研究者が執筆した研究論文の収集

強みとして検討したい概念のキーワード想定
例: 「地域らしさ」を表すキーワード

想定キーワードに基づく研究実績の解析
例: ・該当研究数 ・該当研究者数

アイデンティティとしての適正の検討と判定



4. まとめ

